

■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① 月の光なむいと明かりける。
- ② 風吹かば散りなむ花を惜しと思ふ。
- ③ かばかり病ひ重くは、やがて死なむとぞ覚ゆる。
- ④ 雨いたく降りなば、この花散りなむ。
- ⑤ 君が代の千年に一度咲く花なむ見まほしき。
- ⑥ 旅人、夜更けぬれば、宿に往なむとす。
- ⑦ 願はくは、庭の桜の長く咲かなむ。
- ⑧ かの山には、めづらしき鳥なむ住みける。
- ⑨ 早く都へ帰りなむと心せきて、夜を待たず出でぬ。
- ⑩ 老いぬれば、いづれの人も終には死なむものを。
- ⑪ あげぼのの空にぞ、いとをかしき雲なむたなびきたる。
- ⑫ 君、はやく帰らなむ。我ら待ちわびにたり。
- ⑬ この菓子、いと甘くて、つひに食ひなむと思ふ。
- ⑭ 我いかでこの恋の叶ひなむと神に祈る。
- ⑮ 春は花なむめでたく咲きにける。

■ 設問 (全24問)

1. 傍線部①「なむ」の種類を、次から選べ。

ア 係助詞 イ 完了「ぬ」+推量「む」 ウ ナ変動詞語尾+推量「む」 エ 願望の終助詞

2. 傍線部①の係助詞「なむ」を受けて、文末はどの活用形で結ばれているか。結びの語とその活用形を答えよ。

結びの語：() 活用形：() 形

3. 傍線部②「なむ」の種類を、ア～エから選べ (選択肢は問1と同じ)。

4. 傍線部②の「なむ」について、そう判断できる根拠を簡潔に説明せよ。

(ヒント：「散り」は動詞「散る」の何形か。)

5. 傍線部②「散りなむ花を惜しと思ふ」を現代語訳せよ。

6. 傍線部③「なむ」の種類を、ア～エから選べ。

7. 傍線部③の「なむ」について、なぜナ変動詞語尾+「む」と判断できるのか説明せよ。

(ヒント：「死ぬ」はどの活用の動詞か。「死な」はその何形か。)

8. 傍線部④「なむ」の種類を、ア～エから選べ。

9. 傍線部④「この花散りなむ」の「なむ」を文法的に説明し (助動詞の名称・活用形を含めて)、現代語訳せよ。

10. 傍線部⑤「なむ」の種類を、ア～エから選べ。

11. 傍線部⑤の係助詞「なむ」を受けて、文末の「まほしき」は何形か。また、その活用形になる文法的理由を述べよ。
12. 傍線部⑥「なむ」の種類を、ア～エから選べ。
13. 傍線部⑥「宿に往なむとす」を、傍線部の意味が明確になるように現代語訳せよ。
14. 傍線部⑦「なむ」の種類を、ア～エから選べ。
15. 傍線部⑦の「なむ」について、そう判断できる根拠を、直前の語の活用形に触れて説明せよ。
(ヒント:「咲か」は四段動詞「咲く」の何形か。願望の終助詞「なむ」は未然形に接続する。)
16. 傍線部⑧「なむ」の種類を、ア～エから選べ。
17. 傍線部⑧の係助詞「なむ」を受けて、文末の「ける」は何形で結ばれているか答えよ。
18. 傍線部⑨「なむ」の種類を、ア～エから選べ。
19. 傍線部⑩「なむ」の種類を、ア～エから選べ。
20. 傍線部⑪「なむ」の種類を、ア～エから選べ。
21. 傍線部⑪の係助詞「なむ」を受けて、文末の「たる」は何形で結ばれているか答えよ。また、その結びの形になる理由を一文で述べよ。
22. 傍線部⑫「なむ」の種類を、ア～エから選べ。
23. 傍線部⑫「君、早く帰るなむ」を、「なむ」の意味を正しく反映して現代語訳せよ。
24. 【記述】傍線部⑨「帰るなむ」と傍線部⑫「帰らなむ」は、どちらも動詞「帰る」に「なむ」が付いた形だが、「なむ」の種類は異なる。それぞれの種類を答え、なぜ種類が違っていると判断できるのか、**直前の活用形と文脈**の両面から説明せよ。